

アドバイザー派遣事業 実施レポート

平成30年6月20日

研修実施団体 中部小学校教育研究会 国語部会（倉吉市）  
研修テーマ 「論理的思考力を高める言語活動の工夫」  
研修期日 平成30年6月6日（水曜日）14時00分～16時45分  
研修場所 鳥取県倉吉市立上北条小学校  
アドバイザーの所属 玉川大学教師教育リサーチセンター  
氏名 興水かおり先生

<興水先生の指導助言を受けて>

・国語科において育成を目指す資質・能力の確認

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

○国語科の改訂点を意識して

知識及び技能 言葉の使い方や特徴に触れる機会を増やし言葉にさらに着目させる必要がある。  
指導教材の中にも、必要な内容はちりばめられている。何を指導するのか整理して授業に臨まなければならない。

情報の扱い方 論理的思考についてふれられている。学年ごとに比較するとやはり中学年の時期に身につけておくべき内容が偏っている。各学年でどのような思考様式を身につけさせていくべきなのか。整理してほしい。

○低学年部の協議より

- ・「説明の文章を売り場のカードに変更する仕方」について考えた。  
→前時のふろしきの学び方をいかすことを目指し、本時のランドセルの「よさ」や「理由」に気づかせることができるように取り組んだ。学びの足跡が可視化できていれば、児童にとってはスムーズに思考できたかもしれない。
- ・「大事な文」が児童にとってどういうものなのかを判断する規準を持たせておけばよい。  
例えば 「よさ」＝「できること」に着目させてから「～できます。」という表現に注目させていく。

- ・2つの文章の読み比べ活動においては、「比較」「共通相違」「考えの根拠と理由」「主述の関係」といった思考を働かせることがねらえるはずである。
- ・拡大掲示やカードの見本による意識の集中と焦点化をはかる。

○高学年部の協議より

- ・「自分が選んだ投書のどんな書きぶりに納得できるのか」について考えた。
- ・「書きぶり」という言葉を児童に伝わる表現に変更できなかったため、「内容面」と「書きぶり」の両面が混在した学習展開になってしまった。終盤に書きぶりに注目した発言が引き出され、自分たちが投書を書く際に気をつけなければならないことについて考えることができた。また、友達の意見を聞くことで、自分の意見が変容した児童も見られた。
- ・4つの投書の読み比べ活動においては、「比較」「共通相違」「構成順序」「考えの根拠と理由」といった思考がかなり働いていた。
- ・自分が選んだ投書の理由の共通点や相違点、改善点をトリオトークで確認することで、対話的な学びができていた。
- ・4つの投書の良さをそれぞれ交流することで、よりよい書きぶりに注目することができていた。



教科書の全文掲示により、児童の思考を可視化し、より論理的表現が容易になる。



ホワイトボードに記入することで発言内容を整理できる。



トリオトークによって学習参加を促し、対話的な学びにつなげる。

